

# 児童心理治療施設 若竹学園

## 平成 28 年度 事業報告

### 1、重点課題

#### ① 「身心療法」について

四国医療専門学校の支援を受けて児童の鍼灸治療を継続して行いました。職員の中で鍼灸師の資格を有する者が主となり、臨床での研究成果は外部からも評価を頂きました。

#### ② アロマセラピーの実施について

徳島大学大学院との連携でアロマセラピーを対象児童に実施しました。

### 2、心理分門

臨床心理士 2 名、セラピスト補助 2 名の体制で面接を中心に治療を行いました。治療が困難な児については、囑託セラピスト、心理相談員と相談し対応を図りました。

国立四国おとなと子どもの医療センターを始め、入院中の子どもの退院先として学園入所を考えるケースが増えてきており、関係機関との連携を密にすることが課題です。

### 3、生活部門・特別活動

(1) 個別の自立支援計画を基に、基本的な生活習慣の確立を図りました。集団での遊び、スポーツを行う機会を多く作りました。スポーツをする中でルールや他者との関わりを学ぶ支援を行いました（ドッジボール、バレーボール、サッカー、リレー、ケイドロ遊び等）。

発達に課題を抱え、集団に馴染まず、いじめを受けた経験を持つ児童もおり、仲間が出来たと感じられる貴重な経験となっています。

3 学期の最後に、子ども達から、運動会をしたいと希望があり、若竹学級・青峰学級の先生方と協力してミニ運動会を行いました。

(2) 中学 3 年生が多く、進路についての支援が大きな課題でした。児童、家族との話し合いをする機会を設定し、分級・原籍校の先生方も協力し、一人一人の目標を決め支援しました。結果、希望に応じた進学をすることが出来ました。

(公立高校 3 名、私立高校 2 名、私立通信制高校 1 名)

(3) 増改築に向けて、園生、職員が協力して木の伐採等を行いました。

### 4、社会貢献

女性専用ヘンロ小屋のオープンに向けて、高松工芸高等学校デザイン科 3 年の生徒、香川大学工学部の学生と一緒に学園女兒が清掃活動等を行いました。ヘンロ小屋での活動は、お接待を継続して行うだけではなく、若竹学級の授業の一環として取り組みを行いました。花を植えたり、標識や絵手紙の作成を行いました。

また、平成 29 年 2 月に「NPO 法人遍路とおもてなしのネットワーク」主催の『一日一斉おもてなし遍路』に、昨年度に引き続き参加しました。